

4月から5月にかけて、全ての学年で遠足が行われました。

遠足を行う目的が「いもこじっ子」に次のように書かれています。

1 児童同士、児童と教員との交流を深める。 2 自然に親しみ、基本的なマナーを身につける。

1については、子どもたち一人ひとりが楽しい時間を持つことができるかどうかに関わることで誰かが大切にします。2については、どの程度意識されているかなかなか分かりにくいです。

自然に親しむというのは、草花や景色を見てきれいだと思えることや、普段聞くことができないような小鳥の声に心が癒されるようなことばかりではありません。より積極的に自然のあるがままの姿に親しむようにすることが大事です。例えばいつも舗装された平らな道や整備された階段を歩いている私たちが、石がたくさんあって歩きにくい道、木の根っ子がそこら中にあると躓いて転んでしまいそうな道、大きな石や岩が不規則にならんでいてそれを階段であるかのように登らなければならない道、また、休憩やお昼ごはんのときに近寄ってくる虫たち、そういう自然のあるがままの姿や様子を受け入れて自分をその中に置くことが本当の意味で自然に親しむということなのだろうと思います。そして、そのような気持ちになれたときに自然の中で守るべきマナーが理解できるのではないかと思います。

学校で行う遠足では、子どもたち一人ひとりの意識をどこまで高められるか分かりませんが、家族や仲間たちとのこれからの多くの経験を通して学んでいってほしいです。

【違いを認め合うこと】

子どもたちの学校生活の様子をご覧になった方から、元気な子どもたち、休み時間から勉強への切り替えが上手な子どもたち、授業中に自分の意見を言うことができる子どもたち、と褒めていただけることが多いです。

どれも嬉しいことですが、授業中に自分の意見を発表できるということについては、その背景にあるものが特に大切であると思います。意見を発表する活動には、必ずそれを聞く側の大勢の人がいます。発表することの内容も大事ですが、聞き手しだいで意見発表がしやすいかそうでないかが決まることも多くあります。毎日の学校生活を積み重ねていく間に、自分が発表する意見を多くの仲間たちが聞いてくれて、そして受け入れてくれる、さらには、その意見をよりよくするような仲間たちからの意見発表が続くとしたら、このことは本人にとっても大きな自信になります。逆に、自分の意見を否定されたり、ばかにされたりするようなことがあれば、その経験が次からの行動を大きく左右することになるのは容易に想像できます。私たちは、自分と異なる考えを持つ人、さらには自分とは異なる生活習慣や癖を持つ人を、その全てを受け入れることが仮に難しいことであっても決して無視したり、ばかにしたりするようなことをしてはいけません。

様々な人との関わりの中で、失敗を繰り返しながらも「自分と同じように他者をも大切に思える人」に育ってほしいと強く思います。

【伝える】

6年生の書写(硬筆)の授業で、はがきや手紙の書き方を取り上げてみようと思い、1年間に何回くらいはがきや手紙を書くかを子どもたちに聞いてみると、年賀状などを除くとほとんど書くことがない子が多いことが分かりました。なるほど、生まれたときからデジタル機器が身近にあるような環境で育ってきた子どもたちらしい、と納得してもいいものかどうか。

しかし、これからの生活の中で、きれいな字でしっかりと文章を書くことを求められることが必ずあります。今は小学生なりの文章でいいのですが、自分の思いを文章にして誰かに伝えたいと思える機会を増やしていけたらと思います。

今回の授業では、はじめに「誰に、何を伝えたいか」を考えました。そして、簡単な構成として、書き出し・本文・後書きの3つについて考えるようにしました。本文をどういう内容にしようか迷う子もいましたが、うれしかったこと・楽しかったこと、できるようになったことなどはどうかと話す、ほとんどの子はすぐに自分の思いを文章に表現することができました。今回は、実際に切手をはって投函するかしないかは本人に任せましたが、手紙を出す喜び、そして返事をいただけたときの喜びの両方を体験できたら素敵だなと思っています。保護者の皆さんにももしも便りが届いたら、どうか心をこめて返事を書いてあげてください。

【登下校時に】

駅構内、電車内、さらには栗平駅から学校までの通学路で、一般の方たちにご注意を受けるような子どもたちがいます。一般の方たちにしてみれば毎日のことですから、さぞ不快な思いをされていることと思います。学校でも、声かけや必要に応じての現場での指導をしていますが、保護者の皆さんからの具体的な声かけをお願いできればありがたいです。一般の人たちよりもはるかに多い桐光学園の児童、生徒が乗車する電車、通学路です。だからこそ、一般の人たちのことを思いながらの行動を心がけなければなりません。